

酒販ニュース

醸造産業新聞社

■昭和35年4月15日第3種郵便物認可 ■《旬刊》毎月1、11、21日発行／購読料1カ年17,600円(消費税込)／郵便振替口座00110-5-14639【本社】〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-5-5神田駅前SKビル／電話03-3257-6841／FAX03-3257-4939【関西支局】〒530-0044 大阪市北区東天満2-9-4千代田ビル東館／電話06-6356-0325／FAX06-6356-6909 ●E-mail:shuhan-news@jsnews.co.jp ●URL:http://www.jsnews.co.jp



「程よい量」を求めている

高齢化による酒量減少や色々なお酒を楽しみたいというニーズを受け、流通業者が小容量品に関心を寄せている。写真は国分グループの5社が先に開いた展示会の一コマ。

300ml以下の清酒を中心に、「低アル」「甘め」といった切り口で紹介した。販売金額のアップには「もう1本、もう1杯」の需要獲得がいる。提案に一層磨きをかけたい。

■主な記事■

- 2.3 強い節約志向、消費喚起は下期の焦点は——10・11月にも値上げ
- 3 清酒蔵の米調達に地方自治体が助成
- 特集 夏にワイン どう売るか

7月1日
2025年(令和7年)
第2232号

強い節約志向、消費喚起いかに

下期の焦点は——10・11月にも値上げ

米をはじめとする生活必需品の物価上昇で消費者の節約志向は強まるばかり。諸コスト上昇でビール4社は4月に値上げし、清酒と一部ウイスキーは秋の値上げを発表。主要酒類の上期を総括、下期の焦点を解説する。

実需低調いつ脱するか

■ビール類 4月

1日の値上げが市場にどのような影響を及ぼすか。6月は、仮需分の消化が5月でほとんど終わり、値上げ後の「実勢」がみえてくるといういわれたが、最終的には大方の見込みを下回る前年比5%前後のマイナスとみられる。昨年の6月は最近10年間の6月の出荷としては最も低い実績。「それを下回るといふことはかなり悪い」



節約意識の高まりの影響の二つが挙げられる。こ

れらの要因が定量的にどの程度影響しているかの分析はこれからだ。

下期は、まずは実態の把握と低

(メーカー側)。1〜6月累計の出荷は4%弱の減少とみられる。

低調要因には①値上げによる買い控えや他酒類への消費流出②消費者の

2ℓ売価「4ケタ」に?

■清酒 灘・伏見・伊

丹の大手各社が、宝酒造を除いて10月1日からの値上げを発表した(6月末時点)。関係記事4面

値上げ後の「低濃度2ℓパック」の量販店の売価が「4ケタ」(1千円台)に乗る売場がどれほど出るか。複数社の幹部は「4ケタ売価は、いつかはこ

えなければならぬ壁。その覚悟を持って値上げした」とする。量販店の

バイヤーが「売れなくなると考え、4ケタに乗ることをためらう」ことが

予想されるが、3ケタ売価を維持するために条件を出していたのでは「なんのための値上げか意味

がなくなる」。

有力社から「缶」が登場

■本格焼酎 上期は前

年比3〜4%減だった。果実様の「香り系」商品は、新商品や品目拡充がみられたが全体を押し上げるには至らず。「既存品との入れ替えにしか

「有機」表示巡り混乱も

■ワイン 7月からボ

ジョレ・ヌーヴォーの受けが順次始まる。最大手サントリーの数量計画は前年並み。スーパーやCVSの「意欲」が注目。輸入業者の最大の懸念は、10月1日以降のオー

地方酒は、まもなく決

着する酒米価格と、数量確保が最大の悩み(3面参照)。値上げは8月、さらに10月、11月にも複

11月値上げ追従あるか

■ウイスキー 上期は

数量で前年比3%減程度で、金額は値上げが寄与して約1%増。国産は数量で2〜3%減。昨年末

っていない(発売社)

下期は、三和酒類が6月17日発売したアル分43度の「ichiko」彩天)がまず注目。カクテルを扱うバー業態にどこまで広がるか。有力社が投入する「缶入り」商品も注目される。秋の値上げがどこまで広がるか。

「有機」表示

ガニックワインに対する

「JAS有機マーク」貼付の義務化。小規模な銘柄は「コスト負担が大きいく認証を取得できない(しない)」との声がある。POPや提案書から「オーガニックワイン」表示を削除する社も少なからず。小売の売場はやや混乱するか。

のアル分5度(アルゴン

は発売1カ年の目標5億円達成が確実だ。これから新規需要の「芽」をさらに広げられるか。

追従あるか

では大型銘柄の値上げが

あっても堅調だったが、今年は「米をはじめ生活必需品への支出が優先されたためか、さすがに需

BE HAPPY WITH HOPPY

いまこそ、奇跡の星「地球」のためにできることを

しあわせついで120年

ホッピービバレッジ株式会社
hoppy-happy.com

伝統と革新が融合したスペインワインで
家族や友人との時間をもっと特別に。

THE SPANISH QUARTER
ザ・スパニッシュ・クォーター

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁じられています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は適量を。

輸入総発売元 国分グループ本社株式会社 <https://www.kokubu.co.jp/>

ち込みが大きい。下期は、猛暑が見込まれる夏場に「ハイボール需要を喚起」と、社によっては積極的な販促活動がみられそうだ。

アサヒビールが11月1

日から「ブラックニッカ」3種を値上げ。「追隨があるなら12月実施は考えにくい。11月からの値上げになるのではないかと」の声がある。

■RTD 上半期は前新分野から流入続くか

スキーとの接点として、堅調に推移し「そう」の見方は大きな利点だ。

3月までの「貯金」(主要6社計で10・8%増)と「無糖」を中心とした主軸銘柄の底堅さ、新商品の上乘せが寄与した。

下期、他酒類、特にビール系新分野からの需要流入がどの程度の規模になるか。「価格優位性は維持されたまま、流入傾向は鮮明になるだろう」の見方が多い。主要社は既存銘柄強化と新商品投入が控える。

「価格上昇分の半分」大勢

地方自治体 清酒蔵の米調達助成

高騰が必至の今年産の清酒用原料米。各県酒造組合(連合会)からの支援の要望を受けて複数の地方自治体が米の購入に補助金を予算措置している。前年からの「価格上昇分の半分を助成」する県が中心だ。

価格と供給量 決着今月大勢

●対象「好適米だけ」「加工用米を含む」助成の比較対象は「令和5年産と6年産」「6年産と7年産」。

県酒造組合(連合会)は地元自治体に、蔵元への支援を再三要望していた。県によっては酒米購入費用ではなく、販売促進費や、酒米栽培農家に助成する例もある。

●追られる商品政策変更

今年産原料米は、昨年来の主食用米(飯米)の高騰を受けて、農家が酒造好適米よりも手取りが多くなった飯米への作付転換を急速に進めたため、一部で「昨年より5割高」「6割高」「2倍」と言われる「自

米の価格が好適米を上回る事態は考えられないこと。地方酒蔵元は「契約栽培農家から米を作るが来年はやめる」と言われた「自

米の価格が好適米を上回る事態は考えられないこと。地方酒蔵元は「契約栽培農家から米を作るが来年はやめる」と言われた「自

合中央会は農水省に、各

米の価格が好適米を上回る事態は考えられないこと。地方酒蔵元は「契約栽培農家から米を作るが来年はやめる」と言われた「自

県別の酒米購入費助成事業【現在までに決定したもの】

秋田	令和6年度産の県産酒米(好適米と加工用米)について、5年度価格からの上昇分の半額を補助。予算額は約1億305万円
山形	6年度産の県産酒米4種(雪女神、出羽の里、出羽燦々、美山錦)について、5年度価格からの上昇分の半額(美山錦は1俵1,000円、その他3種は900円)を補助。予算額は約4,010万円
愛媛	6年度産の酒米(産地を問わない。好適米、加工用米など)の購入費のうち、10%を補助。予算額は約2,362万円
高知	7年度産の県産酒米について、6年度価格からの上昇分の一部を補助。好適米は1俵当たり4,000円、加工用米は2,000円を上限。ただし、ともに1,000円まで蔵元負担。予算額は約3,810万円
福岡	清酒・焼酎蔵元に、7年度産の県産酒米(加工用米、好適米など)購入について、48円/kg(主食用米価格との差額96円/kgの半額、1俵2,880円)前後を補助。予算額は約9,328万円
佐賀	6年度産の県産酒米(好適米、加工用米など)について、近年平均価格と比較した上昇分の2分の1(72円/kg、1俵4,320円)を補助。予算額は約3,000万円

■7年6月補正予算案で審議中の助成事業

長野	7年度産の県産奨励品種(美山錦、山恵錦、ひとごこち、金紋錦)4種について、6年度価格からの上昇分の半額以内を補助。予算額約9,438万円
石川	6年度産の県産酒米(好適米のみ)について、5年度価格からの上昇分の半額を補助。予算額約5,600万円
福井	7年度産の酒米(好適米、加工用米)について、6年度価格からの上昇分の一部(半額以内)を補助。予算額約1億5,086万円

思い出の入り口。

先のことはかり気になるけれど、ちょっと昔のことでも思い出してみませんか。



一杯飲んで、あの頃を想う。

むぎ100% 大分 二階堂 二階堂酒造